

大災害が起きても自衛隊は3日間救助に来られない？

新川在住 笹尾哲夫 2016.02.10 FB投稿

昨年8月、台風15号で石垣市の1万を超える世帯が停電になった時、自衛隊は、CH47大型ヘリコプターで沖縄電力の復旧作業員を那覇から緊急輸送してくれました。写真は、それを伝える八重山毎日新聞の記事です。25日に沖電は石垣市と協議、市が自衛隊の災害派遣を要請、ヘリは翌26日の午前10時20分ごろ石垣空港に到着しました。自衛隊は翌日の朝一番で、困っている石垣市民を助けに飛んできてくれたのです。

ところが、自衛隊配備を推進する人たちの「石垣島への自衛隊配備の魅力」というパンフ（別の写真）には、自衛隊が「石垣島に来て大規模な救援活動を行うには3日以上を要する」と書いてあります。えっ、変ですね。大停電の時はすぐ来てくれたのに。そのパンフには「輸送ヘリコプター（1機あたり最大50名）で移動するだけでも片道約2時間を要する」とも書いてあります。片道2時間なら、CH47を5機も使えば、200人を超える自衛隊員や消防の災害救助隊員が、災害派遣命令が出てから数時間後には石垣島に降り立つはずではありませんか。那覇基地にCH47が何機あるかは知りませんが、2014年7月10日には、4機が、宮古島から那覇へマンゴーを運んでいます（<http://www.miyakomainichi.com/2014/07/64538/>）。

要するに、このパンフは、「大地震発生後救出までの時間が3日を超すと生存率が大きく下がる」、しかるに「沖縄本島から自衛隊が救助に来るには3日以上かかる」、だから「石垣島に基地がない限り、大災害が起きたとき救える人も救えない」と言いたいのです。

本来防災は、地方自治体を中心を担うべきものです。しかし、大規模災害のときは、国と自衛隊による救援もきわめて大切です。世界的に見ても練度、規律、装備に優れていると言われる自衛隊が、何千人もの命がかかった災害救助の初動に3日もかかるなんて、およそありえない話です。パンフは、グラフや写真をちりばめた手慣れた作りで、防衛省関係者が関わった可能性もありますが、こんな話まで持ち出して住民を不安にさせ、ミサイル戦争を招きかねない基地の配備容認に誘導しようというのでしょうか？

停電対応で 作業員を輸送

市が陸自に派遣要請

陸上自衛隊第15旅団は26日午前、沖縄電力の復旧作業



自衛隊の大型輸送ヘリを降りる沖縄電力の復旧作業員ら。26日午前10時20分ごろ、南ぬ島石垣空港

業員35人を、大型輸送ヘリコプターCH47で那覇空港から石垣空港に輸送した。

沖電によると、同日の民間機やフェリーが満席で予約がとれなかったため、沖電は25日、石垣市と協議、市が県を通して自衛隊の災害派遣を要請した。市が自衛隊に災害派遣を求めるとは初めてとみられる。

沖電広報は「民間の飛行機やフェリーなど公共交通機関での輸送を検討したが、すべて満席でチケットがとれず手配が難しかった」と話した。

沖電によると、停電に伴う復旧作業では台風前の22日に15人、台風後の25日に26人を本島から派遣しており、この日は自衛隊機で35人、民間機で那覇から1人、宮古から12人を送り込んだ。

災害現場での人命救助は、最初の3日間が一番重要！

石垣島に常に部隊がいれば、災害発生時、直ちに隊員が災害現場に行き、人命救助・救援が可能となり、『助かる命』が増える。

今は石垣島に陸自部隊が配備されていないため、沖縄本島から陸自第15旅団が準備を完了し、石垣島に来て大規模な救援活動を行なうには3日以上を要する。

現在のように自衛隊がない石垣島で災害が起こると・・・

- 沖縄本島から災害派遣部隊が輸送ヘリコプター（1機あたり最大50名）で移動するだけでも片道約2時間を要する。輸送を繰り返しても非常に時間を要する。
- 隊員を運んでも、大型車両・災害復旧の装備が無ければ、人力で救助するしかなく、小規模の救助活動しかできない。
- 住民を救助するために緊急防災拠点となる駐屯地がない。
- 混乱で情報が分からないため、空港・港・道路が利用できるか分からない。

